


第6学年 国語科「みんなで楽しく過ごすために」

◆本時の指導（第3時/全6時間）

(1)本時の目標

目的や条件に応じて計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時に考えた話し合いの進行計画を確かめ、各班のめあてを決める。	<ul style="list-style-type: none"> 前時で、自分たちで作った進行計画を用いることで意欲を高める。 各班で、振り返るときの指標として、話し合いのめあてを決めておく。
	進行計画に沿って、話し合おう。	
展開	2 各班（3人）で話し合い、互いの考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が話し合いの進捗をいつでも確認できるよう、進行計画をモニターに提示しておく。 記録担当は、タブレットのドキュメントに記録を行い、振り返りの際、各班の話し合いの様子が全体で共有できるようにする。 ★自分の考えを発信したり、友達の意見を聞いて考えを深めたり、広げたりすることができる。  <p>◇互いの立場を明確にして進行計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 (観察・記述)</p>
まとめ	3 各班の話し合いの成果を全体で共有する。 4 本時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 記録担当のドキュメントを見ながら発表し、全体で改善点やよい点を共有する。 それぞれのめあてが達成されたか確認する。

◆ 成果と課題

【成果】

これまでの経験を生かし、話し合いの大事なポイントや進め方について、自分たちで考え進行計画を作ったことで意欲が高まった。単元の目標はクラスで話し合い、「話し合いが好きではない人にも、話し合いのよさを伝えよう」という目標にした。班は話し合いをより円滑にするため3名にした。それにより、一人一人が確実に考えを発信し、司会を中心に様々な意見が飛び交い、活発な話し合いができた。

【課題】

友達の考えにより、自分の考えが深まったのかどうかを振り返る時間を設け、話し合いによる深まりを感じさせる手だてを工夫していく必要がある。


第6学年 社会科「憲法とわたしたちの暮らし」

◆本時の指導（第10時/全11時間）

(1)本時の目標

税金の集められ方や使われ方を調べ、税金の果たす役割や暮らしとの関わりを捉える。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 税金がどのように集められているのか、何に使われているのかを予想する。	・自身の体験や身の回りの環境を振り返りながら考えさせる。
	国の政治を行うための費用は、どのように集めているのだろう	
展開	2 税金と国民の関わりについて話し合う。 3 税金の集め方、使われ方を調べる。 4 税金の役割について考え、まとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料画像を提示し、「税金がもしなかったらどうなるか」と考えることで、自分たちの生活と税金の関わりに気付けるようにする。 ・教科書P29「図オ」を見て、集められた税金の使われ方を確認する。 ・消費税以外にも様々な場面で税金が集められていることを捉える。 ・税金の役割について自分なりにまとめる。まとめ方の参考に冒頭だけ書き方を示す。 <p>★社会の一員として納税することの大切さを捉える。</p> 
まとめ	5 本時の振り返りをする。	◇税金の役割や暮らしとの関わりを理解している。(ノート)

◆ 成果と課題

【成果】

資料画像として、実際の教室や物、街の様子を写真に撮り、税金がなくなるとどのような状態になるのかをイメージしやすいよう工夫したことにより、児童が自分事として考える様子が見られた。調べ学習の際には、毎時間使用している資料集やタブレットを活用した。事前に予想をしておくことで、答え合わせのような感覚で調べることができた。

【課題】

税金に対する全員の考えを事前にアンケートで調査し、授業の最後にまたアンケートを行えば、さらに児童の考えの変容が見られたのではないかと考える。

第6学年 算数科「並べ方と組み合わせ方」


◆本時の指導（第1時／全6時間）



(1)本時の目標

順列について、落ちや重なりのないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 絵を見て、走る順序や試合の対戦に関心をもつ。 2 問題場面から課題を捉え、解決の見通しをもつ。	・順序や対戦は、ばらばらに調べると落ちや重なりが出てくることに気付かせる。 ・落ちや重なりに着目して課題意識をもたせる。 ★課題を分析し、課題の解決のために大切なことや気を付けることは何か考える。 
	落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。	
展開	3 自力で課題を解決する。 ・落ちや重なりがないように考えて、走る順序を全て書き出す。 4 解決方法を発表し合い、検討する。 ・各自の考え方を発表し、全体で共有する。	◇順列について、落ちや重なりがないように工夫して順序よく調べようとしている。（観察・ノート） ・黒板や書画カメラなどで児童の考え方を示す。 ・友達の考えを図や表から読んで説明する活動等を取り入れる。 ・観点を決めて順序よく考えたこと、名称を記号化し図や表を用いて整理して表したことを価値付ける。
	まとめ	5 問題を解決し、答えを確認する。 6 解決方法を振り返り、見方・考え方をまとめる。
並べ方を調べるときは、図や表に表して順序よく調べる。		

◆ 成果と課題

【成果】

落ちや重なりがないよう調べるために大切なポイントを色カードで表すことで、まとめて学習を振り返るときに児童から考えを引き出すことができた。

【課題】

板書の工夫により見方・考え方を効率的にまとめられる効果を感じた。今後は ICT も活用し、「次のことを考える力」を重点的に伸ばせるよう、視覚的效果を考えた授業をさらに工夫していく。

11月22日(火)

あおいさん、ゆずさん、ひよりさん、さくらうさんの4人で
リレーのチームを組んで、一人1回ずつ走ります。
走る順序にはどんなものがあるか調べてみよう。

1番目	2番目	3番目	4番目
あおい	ゆず	ひより	さくらう
あおい	さくらう	ひより	ゆず
さくらう	ひより	ゆず	あおい
ゆず	あおい	ひより	さくらう

分母・分子
大変

系統的に記号で決める

あおい → ア
ゆず → ユ
ひより → ヒ
さくらう → サ

めあて
落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。

図や表を使う 1番目を決める

<1番目をアに決めた場合>

ア	ユ	サ	ヒ
ア	ユ	ヒ	サ
ア	ヒ	ユ	サ
ア	ヒ	サ	ユ
ア	サ	ユ	ヒ
ア	サ	ヒ	ユ

ア

- ユ < サ
- ヒ
- ユ < ヒ
- サ
- ヒ < ユ
- サ
- ユ < ヒ
- サ
- ヒ < ユ
- サ

6通り

6×4=24

全員に共通

<1番目がヒ>

- ヒ < ユ
- ア
- ヒ < サ
- ア
- ヒ < ユ
- ア
- ヒ < サ
- ア

<1番目がユ>

- ユ < ヒ
- ア
- ユ < サ
- ア
- ユ < ヒ
- ア
- ユ < サ
- ア

<1番目がサ>

- サ < ヒ
- ア
- サ < ユ
- ア
- サ < ヒ
- ア
- サ < ユ
- ア

第6学年 理科「使う電気の量とはたらき」

◆本時の指導（第5時／全10時間）



(1)本時の目標

電気の性質や働きについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 手回し発電機で、豆電球と発光ダイオードに明かりをつけたときの手ごたえについて振り返りながら、話し合う。【問題発見】	<ul style="list-style-type: none"> これまでの活動などを振り返りながら、豆電球と発光ダイオードの明かりをつけるとき、手回し発電機のハンドルを回す手ごたえが違うことに着目できるようにし、使われる電気の量について興味・関心を高められるようにする。
	豆電球と発光ダイオードで、使う電気の量にちがいがあろうか。	
展開	2 予想する。【予想】	<ul style="list-style-type: none"> 根拠のある予想ができるよう、これまでに学習したことや経験したことなどを振り返るよう助言する。
	3 計画を立てる。【計画】	<ul style="list-style-type: none"> ◇電気の性質や働きについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。（発言分析・記録分析） ★学習問題を理解し、それを解決するために、適した実験を立案する。
	4 豆電球と発光ダイオードの明かりのついている時間について調べる。【実験】	<ul style="list-style-type: none"> 発光ダイオードは、授業時間内に消灯しないおそれがあるので、豆電球との差が確認できた時点で実験を打ち切ってよいことを伝える。
	5 結果を記録する。【結果】	<ul style="list-style-type: none"> 表などにまとめて記録すると、比較しやすくなることに気付けるようにする。
まとめ	6 結果を基に話し合う。【考察】	<ul style="list-style-type: none"> 自他の考えを比較したり、より多くの実験の結果に基づいて2つの違いを比較したりして考察しているか、必要に応じて助言する。
	7 本時の学習を振り返り、分かったことをまとめる。【結論】	豆電球と発光ダイオードでは、使う電気の量がちがう。 豆電球よりも発光ダイオードのほうが、使う電気の量は少ない。

◆成果と課題

【成果】

以前実験で使用した豆電球と発光ダイオードを利用し、消費電力を調べる計画を立てることができた。

【課題】

消費電力を調べる上で、具体的な内容までに至らない児童が多かった。変えない条件（同じコンデンサーに満充電）を考えられるような手だてが必要であるとする。